

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2024年10月分)

2024年11月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[洪水被害の発生\(4日\)](#)

●[地方選挙の実施\(6日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●[警察署の襲撃及び警官殺害\(24日\)](#)

イ スルプスカ共和国(RS)

●[歴史教育カリキュラムの一時差し止め\(11日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[大統領評議会3メンバーのブルド・ブリュニ・プロセス首脳会合出席\(8日\)](#)

●[クリシュト閣僚評議会議長のベルリン・プロセス首脳会合出席\(14日\)](#)

●[ドディックRS大統領のBRICSサミット出席\(20日～25日\)](#)

●[フォン・デア・ライエン欧州委員長のBH訪問\(24～25日\)](#)

(2) 二国間関係

●[ハマスによるテロ犠牲者追悼レセプションの中止及び別会場での実施\(2日、15日\)](#)

●[ブルガリア大統領のBH訪問\(16日～17日\)](#)

●[アルバニア大統領のBH訪問\(22日～23日\)](#)

●[モンテネグロ大統領のBH訪問\(30日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[令和5年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「フォイニツァ市診療所救急車整備計画」引渡式の実施\(11日\)](#)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

(2) 経済政策・公共事業

(3) 経済協力

(4) 民間セクター

(注: この月報は、当地紙報道などの公開情報を取りまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●洪水被害の発生(4日)

3日深夜～4日早朝にかけての大雨の影響により、BH各地で洪水及び土砂崩れの被害が発生し、ヘルツェゴビナ・ネトバ・カントン(ヤブラニツァ市及びコニツツ市)と中央ボスニア・カントン(フォイニツァ市)で27名が死亡した。特に、長年にわたり違法な採掘が続いていたとみられる採石場の崩落が発生したドーナ・ヤブラニツァ(ヤブラニツァ市に所在)における被害は甚大であり、犠牲者は18名にのぼった。また、ヤブラニツァ周辺では道路への土砂の流入、鉄道の敷設された地面の崩落等が発生し、サラエボからモスタル方面への交通の遮断が継続した。モスタル方面への道路は16日より制限なしでの通行が可能となったが、ヤブラニツァ～ブリディニェ間は依然通行止め。鉄道については、復旧まで約3ヶ月を要するとみられている。

●地方選挙の実施(6日)

10月6日、BH統一地方選挙が実施された。なお、洪水被害を受けた4自治体(ヤブラニツァ、キセリャク、クレシェボ、コニツツ)の全投票所及びフォイニツァの2投票所については実施が延期。ヤブラニツァを除く4自治体では20日の実施となった。

今般の選挙では、EU及びUSAID(米国際開発庁)の支援により、一部投票所においてスキャナー、指紋認証、監視カメラ等の新技術導入に係るパイロット・プロジェクトが実施された。

暫定結果においては、各都市で大勢に変化はないものの、国政与党である人民と正義(NiP)の勢力低下、社会民主党(SDP)のサラエボ等での得票の伸張等が注目された。また、

主要都市ではバニャ・ルカ市長選において現職のスタニブコビッチ市長(PDP)が当選したほか、カリッチ現サラエボ市長はノボ・サラエボ区長選で当選を確実にした。

●SIPA副長官の解任(23日)

23日、ガリッチBH国家捜査・保護庁(SIPA)副長官の解任が正式に決定。同人は汚職及び組織犯罪への関与容疑で捜査対象となり、本年7月9日以降クロアチアに逃亡、8月8日に国際指名手配されており、解任が求められていたが、退職金を受け取るために本人は辞職を希望していた。10月22日にBH下院でガリッチ副長官の解任を求めるイニシアティブ(我々の党発案)が採択されたことを受け、コナコビッチ外相は正式にガリッチ副長官の解任を発表。同人は退職金を受け取ることができなくなった。

(2) エンティティ、特別区

ア ポスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●警察署の襲撃及び警官殺害(24日)

24日深夜、ボサンスカ・クルパ(BH北西部、ウナ・サナ・カントン)で、15歳の少年が警察署に侵入し警官を襲撃。1名を死亡させ、1名に重傷を負わせる事件が発生した。当局は本件をテロ攻撃と認定して少年を逮捕したほか、過激派との関与の疑いにより、ビハチ大学(ウナ・サナ・カントン県都)イスラム学部教授やボサンスカ・クルパのイスラム学校関係者を含む8名を逮捕した。家宅捜索では、武器及びアラビア語の文書等が押収された。うち5人が後日釈放され、移動の制限や互いの接触禁止等の措置が講じられた。

イ スルブスカ共和国(RS)

●歴史教育カリキュラムの一時差し止め(11日)

11日、BH憲法裁判所はBH下院議員13名

の要請を受け、RSの9年生(日本の中学3年生に相当)の歴史教育カリキュラムの単元「RSと祖国防衛戦争」の合憲性を判断するにあたり、同単元の運用を暫定的に停止する決定を下した。本決定は、カリキュラムの合憲性が最終的に判断されるまで有効となる。

BH憲法裁判所は、本カリキュラムが異なる民族の生徒同士に分断と差別をもたらす危険性があると指摘した。他方、RS側からは、セルビア系裁判官が不在の憲法裁判所は破綻した機関であり、その決定に正当性は存在しないとの反応があった。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●大統領評議会3メンバーのブルド・ブリュニ・プロセス首脳会合出席(8日)

8日、大統領評議会3メンバーはモンテネグロのティヴァツで開催されたブルド・ブリュニ・プロセス首脳会合に出席。ベチロビッチ議長は会合でのスピーチにおいて、地域協力の重要性を強調し、ベルリン・プロセスの枠組みにおける合意の履行の必要性を指摘した。また、近隣諸国に対してロシア的なアプローチで望むのではなく、経済発展に焦点を当て、EU型の地域協力的なアプローチを取るべきであると述べた。

●クリシュト閣僚評議会議長の南東欧・ウクライナ・サミット出席(9日)

9日、クリシュト閣僚評議会議長はドゥブロブニクにて行われた南東欧・ウクライナ・サミットに出席。ウクライナに対する変わらぬ支持を表明するとともに、EU加盟に向けた努力の継続を表明。また、ゼレンスキー大統領と会談し、同大統領及び国民に対する激励のメッセージを伝達するとともに、本年の政府間協議(IGC)

開催の達成等、同国のEU加盟プロセスの進展に祝意を表した。

●クリシュト閣僚評議会議長のベルリン・プロセス首脳会合出席(14日)

14日、クリシュト閣僚評議会議長は、ベルリン・プロセス発足10周年の機会にベルリンで行われた首脳会合に西バルカン各国首脳、フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長、オルバーン・ハンガリー首相等と共に出席。スピーチにおいてこれまで同プロセスの枠組みで達成してきた成果に言及しつつ、本年中に必要な改革を達成できるよう取り組み続ける旨強調した。

●ドディックRS大統領のBRICSサミット出席(20日～25日)

ドディックRS大統領はロシアのカザンで開催されたBRICSサミットに出席し、プーチン大統領のほか、アリエフ・アゼルバイジャン大統領等と会談。また、ロシアメディアの取材に応じ、世界を平和と安定に導く枠組みとしてのBRICSの役割に期待を表明しつつ、西側がRSの弱体化を企み、さらにはロシアを分割しようとしていると批判した。また、ボシュニャク系を西バルカンにおける反ロシアの急先鋒であるとして批判。

●フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長のBH訪問(24～25日)

西バルカン諸国を訪問中のフォン・デア・ライエン欧州委員会委員長はBHを訪問。洪水及び土砂崩れで大きな被害を受けたヤブラニツァを訪問後、サラエボで大統領評議会3メンバー及びクリシュト閣僚評議会議長と会談した。フォン・デア・ライエン委員長はBHがこれまでにEU加盟プロセスにおいて成し遂げた成果を挙げ、重要改革の履行の重要性を強調。

(2)二国間関係

●ハマスによるテロ犠牲者追悼レセプション の中止及び別会場での実施(2日、15日)

10月15日に当地イスラエル大使館(アルバニアに所在)主催により、ハマスによる対イスラエル・テロから1年の追悼レセプション及び写真展がサラエボ市内のホテル・ヨーロッパで行われる予定となっていたが、10月2日、会場側が中止を発表した。

本件を巡っては、カリッチ・サラエボ市長がガザにおけるイスラエルのジェノサイドという事実を無視して一方の被害のみを喧伝することは挑発行為であるとして非難し、会場側に行事実施の再考を求めていた。報道によれば、会場側も予約を受けた際には詳細を承知しておらず、報道により行事内容を把握したとされる。

なお、本行事は15日に東サラエボ市(RS)の国立劇場において写真展とドキュメンタリー映画の上映という形で行われた。

●チェコ外相のBH訪問(10日)

10日、リパフスキー・チェコ外相がBHを訪問し、ベチロビッチBH大統領評議会議長、コナコビッチ外相及びシュミット上級代表と会談した。外相会談後、両国外交アカデミー間の研修における協力に係るMOUへの署名が行われた。

●ブルガリア大統領のBH訪問(16日～17日)

16日～17日、ラデフ・ブルガリア大統領がBHを訪問し、大統領評議会3メンバー、クリシュト閣僚評議会議長及びシュミット上級代表と会談した。

ベチロビッチ大統領評議会議長は、BHのNATO加盟の重要性を改めて述べつつ、ブルガリアとの経済関係強化につき言及。サラエボ・ソフィア間の直行便就航の検討を提案した。

これに対し、ツビヤノビッチBH大統領評議会セルビア系メンバーは、NATO加盟等の問題についてはBH国内でも異なる見方がある旨述べた。

●コナコビッチ外相のウクライナ地雷除去国際会議出席(17日)

17日、コナコビッチ外相はスイス・ローザンヌで開かれたウクライナ地雷除去国際会議に出席し、パネルの司会を務めたほか、スヴィリデンコ・ウクライナ第一副首相兼経済大臣と会談した。コナコビッチ外相はウクライナの領土一体性及び主権への強い支持を述べると共に、BHのEU加盟への変わらぬ強い姿勢を強調し、BHの外交・安全保障政策はEUと調和しており、対ウクライナ支援を継続していくと述べた。

●アルバニア大統領のBH訪問(22日～23日)

22日～23日、ベガイ・アルバニア大統領がBHを訪問。サラエボにおいてBH大統領評議会メンバーと会談したほか、モスタルを訪問し、コルディッチ市長と会談した。

ベガイ大統領はBHの領土一体性を支持する旨強調し、今後もEUFORミッションへの参加を続けると述べた。また、アルバニアにとってもBHにとってもEUはより良き生活のための唯一の選択肢であるとし、ロシアによるウクライナ侵略により加盟プロセスが加速したと述べた。

ベチロビッチ大統領評議会議長は、BHの戦略的同盟国としてのアルバニアの重要性を強調。サラエボ-ティラナ直行便の就航に意欲を見せた。

●モンテネグロ大統領のBH訪問(30日)

30日、ミラトビッチ・モンテネグロ大統領がBHを訪問し、大統領評議会3メンバー及びクリシュト閣僚評議会議長と会談。特に道路及び鉄道等のインフラ面での協力及び経済協力に関して意見を交わした。ミラトビッチ大統領は洪水の犠牲者に哀悼の意を表すとともに、EU加盟に向けた両国の友好関係の発展のための尽力について強調した。

(3)日・BH関係

●令和5年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「フォイニツァ市診療所救急車整備計画」引渡式の実施(11日)

11日、杵淵駐BH大使は洪水被害の実情査察を兼ね、フォイニツァ市(中央ボスニア・カントン)を訪問。また、令和5年度草の根無償資金協力事業「フォイニツァ市診療所救急車整備計画」の引渡し式に出席した。杵淵大使は、洪水被害からの一刻も早い復興を願う旨述べつつ、今回の支援がフォイニツァ市民の生活の質向上及び復興に役立つことを期待していると述べた。



(写真: 引渡式の様子)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

●産業生産指数

2024年9月の産業生産指数は、季節調整後数値で前月比0.1%のマイナス。また、昨年同月比5.8%のマイナス。

●雇用／失業率

2024年8月の失業者登録数は32万9,829人(うち女性19万6,029人)で、前月比で0.4%プラス、前年同月比で5.8%マイナス。

●平均給与

2024年8月の平均給与(手取り)は1,392 KMで、前年同月比で8.7%のプラス。

●消費者物価指数

2024年9月の消費者物価指数は前月比0.1%のプラス。また、前年同月比で平均0.8%の上昇。食料品・ノンアルコール飲料の価格は前月比1.2%のプラス。

●貿易収支

2024年1月～9月のBHからの輸出総額は118.85億KM(前年同期比6.1%減)、BHへの輸入総額は213.11億KM(前年同期比2.6%増)。貿易収支は94.26億KMの赤字。

(2) 経済政策・公共事業

●洪水被害に係る対応(4日～)

洪水被害の発生を受け、RS大統領府は被災自治体に対して5万KMずつの支援を決定。BH閣僚評議会はヤブラニツァ、コニツ、キセリャク、クレシェボの各自治体にそれぞれ20万KMを拠出する旨決定した。

●サラエボの旅行客数及び宿泊数の増加(21日)

サラエボ・カントン観光連盟によれば、本年9月にサラエボを訪れた旅行者は約8.5万人で、前年同月比23%増。旅行者の宿泊数は

18.8万泊となり、前年同月比13%増。

旅行者の出身国上位はトルコ、中国、サウジアラビア、クロアチア、ドイツ、米国、セルビア、クウェート、英国、ポーランド。

●国内製品の消費促進キャンペーン(22日)

BH連邦商工会議所は、国内製品の消費促進のための新たなキャンペーンを開始した。商工会議所は、消費者が国内製品を選択することがBH経済の活性化の重要ファクターであるとし、国内製品への認定証及び商標の付与を通して質の向上を促し、流通の促進と競争力の強化、BHのブランド力の向上に繋げていく考え。現時点で、既に60以上の企業から認定証の取得申請が行われている。

(3) 経済協力

●洪水被害に係る諸外国の支援(4日～)

4日に発生した洪水被害に対し、各国が救助部隊の派遣や支援物資の提供を実施している。トルコ、EU(欧州委員会市民保護メカニズム(UCPM))、クロアチア、セルビア、スロベニア等は災害発生後から救助物資・救助隊の派遣を行ったほか、UCPMを通じてルーマニア、アルバニア、チェコ、ポーランド等も支援を表明。BHで訓練を行っていた英国の災害対応チームは即日被災地で救助活動に従事。その他、米国はUSAID(米国国際開発庁)を通じ、コニツ及びヤブラニツァに清掃用品等の供与を行った。

(4) 民間セクター

●サラエボ～ローマ便の就航(20日)

10月29日、ハンガリーの格安航空会社であるウィズエアーによるサラエボ～ローマ便が初運航。ローマ発のサラエボ便が同日12時4分に着陸した。同区間は火・木・土の週3便の運航となる。